平成２５年度　南アルプス市立白根御勅使中学校
学校関係者評価書

平成２６年１月１７日（金）
学校関係者評価委員作成

第２回学校関係者評価委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
実施日：平成２６年１月１０日（金）午後７時００分～８：２０
会　場：白根御勅使中学校　校長室
参加者：学校関係者評価委員…　秋山　契（委員長）　中澤真司　山本　昇　有野　修　矢崎政彦
　　　　学校職員………………　校長：花輪昭彦　教頭：石川哲也　教務主任：望月昭栄

Ⅰ　学校側からの提案された内容
（１）　白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会会則について
（２）　学校評価の目的について
（３）　学校評価の方法について
（４）　後期自己評価及び生徒アンケート・保護者アンケートの結果について

Ⅱ　協議された主な内容
（１）　自己評価結果についての全体評価
（２）　自己評価結果より課題となる項目について
（３）　生徒アンケート結果及び保護者アンケート結果と課題となる項目について
（４）　その他
・・・

＜学校関係者評価書＞

Ⅰ　全体評価

白根御勅使中学校の自己評価（教師評価）は，前期評価に対して，B 判定が３項目増加し，全３７項目中A判定が３２項目，B 判定が５項目となり，全体的にはおおむね肯定的な評価ではあったものの，前期評価に比べて課題の残る結果となった。

生徒アンケートは，前期評価に対してB判定が３項目であり，B 判定となった項目も同様項目であった。また，保護者アンケートにおいては昨年度の保護者アンケートに比べて，B 判定が７項目増加しているが，いずれも 0.1～0.2 ポイント減によるA判定からB判定への移行であり，微減によるものとなっている。また，生徒アンケート，保護者アンケートとも全ての項目に対してA判定及びB判定の肯定的な回答であり，これは，自己評価結果とも同じ傾向を示しているといえる。

自己評価結果，生徒アンケート・保護者アンケート結果がともに肯定的な回答ではあるものの，保護者アンケートの B 判定の増加に関連して，自己評価結果と同様項目についての比較では，自己評価の A 判定項目での保護者アンケートの B 判定項目が昨年度後期評価よりも増加してしまった。

特徴

・「正しい言葉遣い」，「積極的な清掃活動」について５期続けてB判定であり，本校としての課題である。今回は前期評価に対しも評価ポイントが減少している。今後も地道に指導をしていく必要がある。
・生徒アンケートについては前期アンケートの結果とあまり変化はないものの，保護者アンケートについては昨年のアンケートに比べて評価平均が低くなった項目が目立った。全体評価でも既述したように，昨年度に比べて B 判定が増えたこととも関連をしていると考える。また，生徒アンケートにおける担任の先生にいろいろなことを相談できますかについては前期アンケート結果と変わらなかったが，担任の先生以外の先生等に相談できますかの項目については若干の向上がみられた。冬季日程となり下校時間が早くなり，

放課後の時間の確保が難しい状況ではあるが，生徒と向き合いじっくりと話をする時間の確保について工夫をしていきたい。

・生徒・保護者アンケートの同様項目「学校が楽しい」について，５期続けていずれもA判定であった。

・「紅タイム」は読書を中心に取り組んでいるが，合唱祭に向けてはクラス合唱の時間に，また一斉読書としてみんなが同じ本を読んだりする時間に，また，四文字熟語やことわざの書き取りの時間にと工夫をしている。教職員の自己評価，生徒アンケートについてはA判定になっているが，保護者アンケートについてはB判定となっている。

・防災訓練についてはより現実に即した訓練を工夫しているが，体育館改築工事により校地内の仮囲いや通行できない場所などもあり，避難経路や避難場所について徹底した。

・毎日の学習習慣ができているについては，生徒アンケート・保護者アンケート両方ともB判定であったが，特に生徒アンケートについては評価平均が2.5と大変少ない状況にある。授業を大切にする姿勢を持たせていきながらも，足りないところは家庭学習として個人的に10分でも15分でも机に向かう習慣をつけていくことが課題である。

Ⅲ　話し合われたこと，意見等

・今年度は体育館改築工事があり，体育館がないことに対して影響はありましたか。

- 部活動や体育の授業，学校行事や始業式・終業式などの儀式的な行事などいろいろな面で影響があったが，生徒や先生方が知恵を出し合いながら，また学区内の小学校の体育館を借りるなど諸機関の協力を得ることができた。
- 解体工事の時などはどうしても大きな音が出て，授業や落ち着いた教育活動という点では課題があったが，毎週の行程会議などで学校の要望なども入れていただいた。

・今回の評価は前期の評価と比較し，保護者評価が厳しく（２７項目中１６項目がB)，教師の評価とずれがあが，生徒と毎日接している教師と，子どもを通して評価する保護者の評価が異なるのは当然である。B評価であるから教師力，生徒の様子がよくないとは言えない。
保護者の評価は否定的な評価ではなく，教育への関心や期待感と見ることもできる

・評価に変動がみられるが，集団の価値観・見方がその年々で異なるため，評価にも影響する。単に昨年度の比較ということで評価平均の増減を論じることはできない。

・保護者の意見で特徴的なものはなにか。

- 学校の教育活動について心配をしてくれている内容が多い。また，自分にできることがあればぜひ協力をしたいので，声をかけてくださいなどの応援の御意見もあり，心強く感じた。

・保護者の厳しい意見は，関心や期待感の表れ。CでなくB評価ということから単なる批判ではなく，改善を求めている。また，このことが活力につながる。

・家庭学習の習慣がない。好きな教科はやるが，苦手な教科を克服するという意識がない。

・変化が激しい社会であり，先が見えにくい社会である。将来に希望を持ちにくい現状があるのではないか。

・それについては永遠の課題である。親子が話し合うことが大切。話しかけることが大切。

・学習習慣について，日本の生徒はOECD先進国の中でもかなり低い。将来については，職業の種類が多くて絞れなかったり，社会の変化が激しく自分のなりたい仕事や将来の夢が持ちにくい。

・自分の子どもについては何をやりたいのかが無いようでコロコロ変わるが，本人の希望を優先したい。

・学習は学校で行い，社会性を身につけるのは家庭で行うのが基本であると思う。

・学習レベルが高すぎて親が教えることができない。昔と違い，夢や進路への希望も持ちにくい。

・それだけにコミュニケーションが大切。親が子供に話しかけ，かかわりを持つことが大切である

※　特記事項　　なし

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校　学校関係者評価委員会委員長

秋　山　　契　　印